

2008年6月4日

各位

日本ゼオン株式会社

日本ゼオン、水島工場で統合生産センターを竣工

日本ゼオン(社長 古河直純、東京都千代田区)は統合生産センター(Integrated Production Center 以下IPC)の竣工式を6月4日に水島工場(岡山県倉敷市)で執り行った。

当社ではものづくり現場の強化のため、2006年より、ダイセル式生産革新手法の導入を進めてきたが、このたび水島工場で「ものづくり」の拠点となるIPCが完成し4月より稼働を開始した。

IPC建屋は鉄骨鉄筋コンクリート造り、2,300平方メートルの3階建て、1階は集中コントロール室、2階はスタッフ室、3階は機械室及び予備室からなる。総工費は制御システム等も含め約30億円で、ものづくり機能を集中化させることから堅牢性・信頼性を強化するため、震度7強以上の震度に耐えられる強度、津波対策、対液状化対策等の実施と共に電源系統や情報系統の冗長化を図っている。

ダイセル式生産革新手法の導入により、第一段階として、工場の共通言語化、ルールの統一など基盤整備を強化した。さらに現場の徹底的な安定化を、作業負荷を毎年半減させることで実現させた。第二段階として、熟練オペレータのノウハウを形式知化し、標準化して、誰もが活用できる技術にした。第三段階として、第一及び第二段階で得られた知見に基づく「知的統合生産システム」を構築した。これにより、より安定で、安全な工場を徹底的に追求するだけでなく、熟練オペレータの技術・技能を確実に伝承出来るものと考えている。

このたび導入した生産革新は、単にIPCという建屋を建設しシステムパッケージを導入したものではなく、人・組織の革新、生産システムの革新、情報システムの革新を実現し、現場が自律的に改善し続けていくための風土改革と人材の育成を目指すものであるが、同時に製造原価の低減、生産性の向上も図っていく。

今回は第一期として、工場全体の約半分のエリアを対象としており、第二期として2010年4月に、全てのものづくり実践機能(生産、設備管理など)をIPCに統合する予定である。

以上

お問い合わせ先

日本ゼオン株式会社

広報室

電話 03-3216-2747

